

卒業証書授与式

本日ここに、西予市副市長 宗 正弘 様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和3年度愛媛県立野村高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは大きな喜びであり、深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられたことに心よりお慶び申し上げます。

さて、ただいま、卒業証書を授与した68名の皆さん、卒業おめでとう。これからの未来に向かって大きく羽ばたこうとしている卒業生の皆さんに、私は二つのことをはなむけの言葉として贈りたいと思います。

一つは、夢に向かって挑戦するということです。先の、北京オリンピックでもこのフレーズはよく耳にしました。人間の能力は、その人に最初から備わったものではなく、高いレベルのものを課せられた時、それに挑戦することを通じて引き出されるものだと思います。そのためにも夢に向かって挑戦することです。夢を持つことは人を大きくします。夢を持ち続けることは、自分の能力を伸ばし、自分の世界を広げてくれます。本校、第18回卒業生で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された、人形浄瑠璃文楽・人形遣いの荻野恒利氏は、志を実現させ、大きな成果をあげられたことはご承知のとおりです。皆さんも本校で培った、「新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 地域とともに、未来を探究する」の精神を発揮し、新しい時代の創造者になるという気概を持って、夢に向かって果敢に挑戦してほしいと思います。

もうひとつは、人を思いやる気持ちを持つことです。皆さんの三年間の歩みは、予想もできない出来事の連続でした。一年生の後半からは、新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの学校生活でした。突然の休校、部活動や諸行事の中止と縮小、楽しみにしていた修学旅行も予定の変更に追い込まれ、体育祭は無観客開催を余儀なくされました。しかし、皆さんはそのたびに、野村のチーム力によって困難を乗り越えてきました。このような状況の中から、人を思いやる気持ち、いたわりの感情、共感性などを学んだのではないのでしょうか。どんなに科学技術やAIが進歩しても、最終的に人が人とコミュニケーションをとる上で大切なことは、そういったお互いを尊重すること、人を思いやることです。皆さんにはこのことを忘れずに今後の人生を歩んでほしいと思います。そんな、相手の気持ちがわかる、心優しい生徒が多いのは、ここ野村町の特徴だとも思っています。

私は野村高校が伝統校としてあり続けられるのは、第一に、本校に対する同窓生、保護者、地域の方々の熱い思いがあるからだと思います。様々な場面で生徒を励まし、支えてくださったことが野村高生にとってどれだけ力になっていることかわかりません。第二に、本校で教える教師の志、心意気です。本校の先生方は野村で教えることの誇りと使命感を持って教壇に立ち、生徒に真剣に向き合っています。そして、第三に、皆さん自身が新しい未来を切り拓いていこうとする力です。この三つが見事に融合し、野村という校風を作り上げ、野村高生を育んできたのだと思います。本校の卒業生はこれまで1万5,000余名を数えます。全国の同窓生が後輩達の活躍を期待し、熱い思いで皆さんを見守ってくれるはずです。これからは、多くの仲間とともに、「美しく、新しく、逞しく」の気持ちを持ち続け、力強く歩んでください。

結びに、卒業生の皆さんの前途洋々たる未来を祝福し、皆さんが、高い志と野村のプライドを胸に抱きながら、自分の人生を切り拓き、21世紀をたくましく生き抜いていくことを心から祈念し式辞といたします。

令和4年3月1日

愛媛県立野村高等学校長 松永 泰